

平成29年度 富山県民生涯学習カレッジ砺波地区センター運営会議 議事概要

1 日 時 平成30年2月6日(火) 14:00~15:30

2 場 所 富山県民生涯学習カレッジ砺波地区センター 第1学習室

3 出席者 運営委員

池田 真一(株式会社ロンウッド 代表取締役社長)

大家 芳夫(介護老人保健施設 ゆうゆうハウス 事務長)

大谷 朝子(元小矢部市立蟹谷小学校長)

桐山 巧(雷鳥会砺波支部長)

瀧田 悟(津沢地区自治振興会 副会長)

田悟 敏子(富山県「とやま食の匠」)

飛田 久子(となみ野高等学校 学校評議員)

仲井 文之(富山国際大学 教授)

塚崎志津江(公募委員 小矢部市子ども家庭支援センター 家庭児童相談員)

事務局

県民カレッジ本部 中明 文男 副学長

県民カレッジ砺波地区センター

中山所長、中葉副所長、橋本となみ野高校事務長、田辺社会教育主事

4 会議次第等

(1) 開会の挨拶

県民カレッジ砺波地区センター 中山所長

当地区センターは平成13年にスタートし、この3月でまる17年となる。県民の皆さんの生涯学習に関する認識やニーズが変化してきている中、当地区センターはそのような変化に対応すべく、県やカレッジ本部のご指導を仰ぎながら、その変化に対応してきた。本日の審議内容について4つの柱を立てた。それらについて委員の方々の忌憚のないご意見を頂戴し、当地区センターの今後の運営に役立てたいと思っている。

(2) 参加者自己紹介

(中明副学長)

平成13年の砺波、新川の両地区センターの開所から始まって、高岡、富山の地区センターがそれに続いて、これら4つの地区センターがそろって5年経った。現在、全体で288講座を実施している。皆さんのニーズにあったものを準備しているつもりだが、こちらの思いと受講者の思いにずれ違いがあったり、私たちが受講者の思いを受け止めきれなかったりすることもあるのではないかと考えている。本日はお聞かせ頂いた様々なご意見を参考にし、今後の運営に還元していけたらと思う。

(3) 報告

① 県民カレッジ砺波地区センター事業概要について

砺波地区センター関係の講座やその様子、となみキャンパスフェスティバルでの受講者の活動についてプレゼンテーションソフトを使って説明。

② 平成29年度事業報告

○配布資料をもとに説明

○事務局コメント

- ・本年度は「わくわくシアター」を新たに実施した。6月～2月（10月を除く）の第2、4金曜日の午後4時から様々なジャンルの映像の上映を行った。となみ野高校の生徒も見られるように時間設定をした。

(4) 審議「県民カレッジ砺波地区センターの運営に係る現状と課題（4つの視点から）」

【① 学習機会の提供】・開設講座の受講者数を増やすには何が必要か。

・より質の高い講座を開設するには、どのような視点が大切か。

(委員) 砺波市、小矢部市、南砺市の3市の生涯学習の担当者と講座について話し合う場はあるのか。彼らと連携しながら、各市の特徴や良さをうまく活かした講座を企画すればどうか。

(事務局) 3市の生涯学習担当者と講座について話す場はない。

(委員) 講座によっては定員を越す申込のため、抽選で落選する人もいる中で、当選した人の中には1、2回で来なくなる人もいる。落選した人もいるので、当選した人には最後まで続けて欲しい。開講式では、せっかく当選したのだから途中でやめないように強く言って欲しい。

(事務局) センターでも途中で来なくなることには心を痛めている。欠席が続いている人には様子を伺う連絡をとっている。今後も同様に対処したい。

(委員) 受講者の年齢層が60～70代の方が多い中、30～40、50代の方も少しいる。そのような年齢の方はどんなきっかけで受講しているのか。

(事務局) その年齢層の方は、女性が大半で土日開催の講座に参加しているのがほとんどである。例えばとなみ野の食文化などの実技型の講座に参加されている。

【② 情報提供など】・学遊ネットの利用を向上させるにはどうしたらよいか。

(委員) 仕事柄、若いお母さん達と接することも多く、子どもが保育園などに上がった今度は昼の空いた時間に仕事や趣味を始めてみようかなと思っている方がいること知っている。しかし彼らは講座の情報を知らない。この様な人達へのPRを考えたらどうか。
(センターだよりまででなくても紙一枚で概要が書かれたものを配布するなど)

(事務局) 現在、図書館や公民館などの生涯学習施設にだよりを配布しているが、ニーズのありそうな新しいところへの配布も前向きに検討したい。

(委員) 地区センターのホームページがあるが、パソコン対応のみなので、スマートフォン対応（小画面対応）のものもできないか。

(事務局) 予算のこともあり、まずは現在のホームページのレイアウトを工夫するなどして、スマートフォンでも見やすい形に変えたいと考えている。それに向けて学遊ネットの担当者が調査しているところだが、まだ時間がかかると思う。若い人が使いやすいようにホームページを整備することは大事な課題だと思っている。

【③ 学習相談】・今以上に、気軽に学習相談ができるようにするためには、どうしたらよいか。
・主催講座のそれぞれの意義を受講者に、速やかに理解してもらえる策は何か。
・より質の高い講座を開設するには、どのような視点が必要か。

(委員) どんな学習相談が多いのか。電話による相談はあるのか。

(事務局) 講座内容や費用についての問合せが多い。電話での相談はある。

(委員) 講座を企画するにあたってどんな講師がいいかといった相談はあるか。

(事務局) 今年はそのような相談はなかった。

(委員) 婦人会での講演会の講師を選定するときに、地区センターの講座やキャンパスフェスティバルの講師を参考にした。実際2名ほど、自分たちの地域での講演会の講師として依頼した。そういう時に地区センターに相談でき、ありがたかった。

(事務局) 去年、一昨年は講師の相談がそれぞれ1、2件あった。講師を求めている方には「学遊ネット」の講師・指導者検索も紹介している。

(委員) 若い人はメールが使いやすいようだが、メールでの学習相談はできるのか。

(事務局) できます。地区センターのホームページから可能であるが、あまりメールでの相談はない。認知されていないのかもしれない。今後はメール利用の推進も考えていく必要性は感じている。

【④ 学習交流】・となみキャンパスフェスティバルにもっと来場してもらえる策は何か。

(委員) 自遊塾の県民教授に協力いただいて、特別講座をしてもらえばどうか。

(事務局) 少しでも賑わいを作るという面で、講師の活用は大事な意見だと思う。

(委員) 今年のキャンパスフェスティバルは時間が短かった(終わるのが早い)気がした。展示を見に来たら片付けに入っていた。その時期は各地域でもいろいろな行事があり、来所できる時間が限られていることが障害になっている。あと、学習交流をねらうなら、キャンパスフェスティバルだけでなく、日常のセンターでの作品展示などでもできる。これが受講者の情報交換になったり、モチベーションを上げる元になったりするのではないか。今年と同じ作品が長い期間、展示してあったが、展示サイクルを早くしていろんな人の作品も展示したほうがよい。

(事務局) 来年度は担当の先生と検討し、より多くの作品を展示するよう努めたい。

(委員) 石川県の生涯学習の機関はあるのか。

(事務局) 他県にもありますが、それぞれ多様な形で存在している。

(委員) 他県の生涯学習機関との交流があってもよいのではないか。

(事務局) 受講生で石川県から来る方もごく少数ながらいる。

【⑤ その他】

(委 員) 講座の期間設定(前期、後期、通年)によって修了率が変わってくると思うが、その設定についてどういう理由でわけているのか。

(事務局) 共学講座はあくまでとなみ野高校の授業であって、それに社会人を入れて実施しているので、授業担当者の思いを汲んで設定している。

(5) 閉会の挨拶

県民カレッジ本部 中明 副学長

本日は貴重なご意見をたくさんいただき、ありがとうございました。県民カレッジでは今年度、主催講座だけで5871名、全体にすると1万人を超える方が受講された。受講生の多くから「満足した」、「受けてよかった」という感想をいただいている。少子高齢化、情報化社会といった時代の流れの中で、講座の変化や県民カレッジの在り方を考えていかねばならないと思っている。富山県は豊かで住みよい県であると言われる一方、寂しさを感じられるのも昨今の事実ではないかと思う。そんな中で、生きるためのヒントや心豊かに生活していくための機会を提供サービスできるのが県民カレッジではないかと考えている。県民カレッジは今年度で30周年を迎える。今後も県民カレッジの運営には、皆様のご意見が非常に大切になる。県民カレッジが県民にとってより良いものになるよう支えていただきたい。